

## ◆ 帰国生がいると分かる

2年生は、郵便の学習をします。郵便は、子どもの生活にも関わりがあるし、一つの目的を持った仕事で、たくさんの人の協力によって進められていることや、仕事を正確に効率よく進めるためにいろいろな工夫がされていることを理解するためにとてもよいテーマです。

日本のことだけしか知らないと、郵便のマークは「〒」、ポストの色は赤ということになりますが、いろいろな国の生活を経験した子どもたちがいると、勉強がもっとおもしろくなります。「〒」は、かたかなの「テ」ですから通用するのは日本だけだし、ポストの色にしても青、黄、緑などいろいろあります。郵便ポストまで行かなくても、ドアの前にぶらさげたり、家の郵便受けに入れて合図を出しておいたりすると持って行ってくれるシステムのところもあります。国によっては郵便差し出し用のポストはなく、必ず郵便局に行って郵便を出さなければなりません。いろいろ調べてみると、それぞれの場所に依りて、合理的な方法が工夫されていることが分かります。郵便は、実際に海外とつながっているのですから、帰国生からの情報はとても役に立ちます。4年生のごみと環境の学習なども、海外の具体的な事例があると学習がさらに深まります。

英語で学校生活を送って来た子がたくさんいるので、6年生の社会科「世界の学習」のアメリカのところでは、アメリカ人の先生に英語で授業をしていただきました。アメリカ人の立場から見たアメリカの話や質問をすることもできて、充実した学習になりました。英語で生活したことの無い子どもたちには内容をそのまま理解することは無理なので、日本語で補助をつけましたが、英語の時間に学習したことがこれからどのように生きるのかを実感する経験にもなりました。(啓明学園初等学校では、1年生から英語の授業があります。)この時間をおとす、将来国際的な活動をしようという意欲を持った子もいるようです。

もちろん、編入した子どもたちのお家の方に来ていただいて世界各地の生活の様子を話してもらうことは日常的に行っています。お父さんやお母さんは、なつかしい写真や品物をたくさん用意して、ていねいに話してください。いろいろなつながりで、外国からのゲストをお迎えすることもよくあります。

ちがう場所で育った友だちと一緒に学ぶことには、たいへん大きな意味があります。激しく変わっていく世界に生きていくためには、今までにだれも経験したことのないような問題にも立ち向かっていく必要があります。一つの文化の中でのものを考えるだけでは十分ではありません。一つのことをさまざまな角度から見て、いろいろな発想で考えることができることは、とても大きな力になります。



## ◆ 楽しさを広げたい

帰国生は、日本中のいろいろなところにいるのですから、帰国生と一緒にこのような楽しい、充実した体験ができる場所は、学校に限らずたくさんあっていいはず。ところが、「今は日本の郵便の勉強なのだから外国のことは聞く必要がない」という人がいたり、「ぶら下げておくだけで郵便を持って行ってもらえるなんて、あるはずがない」と初めから信じてくれない人がいたりすると、せっかくのチャンスも生かされません。そこに、「あの人は外国に住んでいたことを自慢している」とか、「日本語がへたなくせに目立ちがる」とか、素直でない気持ちが混じると難しいこととなります。帰国生の方も「めんどうだから、外国のことを話すのはもうやめよう」ということになってしまいます。残念ながら、まだまだこのようなことが起きているところもあるようです。

自分とちがう感じ方をする人を受け入れることができなくて、世界の人たちとつき合っていくことはできません。子どもたちから多様な価値観にふれ、ちがいを楽しむことができるようになっていけば、将来の勉強や仕事の可能性もぐっと大きくなるはず。私たちは、帰国生のいる楽しさを、たくさんの人に伝えていきたいと思えます。

\* 啓明学園の様子は、ウェブサイト [www.keimei.ac.jp](http://www.keimei.ac.jp) でご覧ください。

啓明学園 初等学校・中学校・高等学校  
国際教育センター

〒196-0002 東京都昭島市拝島町 5-11-15

電話：042-541-1003

ホームページ：www.keimei.ac.jp

Eメール：kokusai\_info@keimei.ac.jp



国内と海外で育った子ども達と一緒に学ぶことで、より大きな幅広い学びが生れる、という報告です。

日々の学習の中に自然な形で異文化が入り込むことにより、複眼的な視点や考え方が身につく、それが楽しみになるとの指摘です。そのきっかけを「帰国生」が持ち込んでくれるのです。